

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	老人福祉施設管理事業						担当部	健康福祉部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	地域福祉課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	長寿福祉係							
	総合計画 分野別計画	主目的	2 保健・福祉		8 高齢者福祉		1 高齢者の社会参加と生きがいを支援します									
		副目的														
	予算区分	款	3		項	2		目	1		大	6		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市高齢者デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例外														
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	高齢者の在宅生活の継続を図るため、在宅支援施設である老人福祉センター等の保守管理を行う。														
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・第2老人福祉センター(各々) 指定管理者により管理を行う 第1老人福祉センター…NPO法人ワーカーズコープ 第2老人福祉センター…コニックス(株) 施設の保守管理(自家用電気工作物1回/隔月、健康器具3回/年、消防設備2回/年、空調設備4回/年)、団体利用者の送迎(230日程度/年)、各種の講座(約250回程度)を実施。 利用証の発行、備品購入事務、年間委託料の関係事務を実施。 平成26年度から平成29年度までの指定管理者を選定した。 ・岩崎・ふれあいデイサービスセンター(各々) 指定管理者である小牧市社会福祉協議会により管理を行う 施設の保守管理(清掃随時、消防設備2回/年、自動ドア4回/年、ボイラ4回/年)、利用者の送迎(毎日)、介護サービスの提供(毎日)を実施。 備品購入事務、年間委託料の関係事務を実施。 平成26年度から平成29年度までの指定管理者を選定した。 <p>◆25年度直接経費の内訳 老人福祉センター管理委託料 115,400千円 岩崎デイサービスセンター管理委託料 2,293千円 ふれあいデイサービスセンター管理委託料 1,913千円 その他用地借上料等 1,289千円 (一般財源以外の財源) ふれあい・岩崎デイサービス施設利用料 3,137千円</p> <p>◆26年度直接経費の内訳 老人福祉センター管理委託料 116,200千円 岩崎デイサービスセンター管理委託料 1,300千円 ふれあいデイサービスセンター管理委託料 500千円 その他用地借上料等 5,539千円</p>														
	受益者負担	有 デイサービスセンターは、介護利用料として1割負担														

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	112,664	119,161	120,895	123,539	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	526	526	526	526
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	113,190	119,687	121,421	124,065		
対前年比	%			105.7	101.4	102.1		
財源	一般財源	千円	109,565	113,874	118,284	124,065		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	3,625	5,813	3,137	0		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	開館日数 (第1・第2老人福祉センター)	日	目標	—	—	—
実績				305	304	305	
業	開所日数 (岩崎・ふれあいデイサービス)	日	目標	—	—	—	—
			実績	294	308	308	
業	利用人数 (老人福祉センター)	人	目標	—	—	—	—
			実績	152,905	174,932	173,010	
業	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	事故件数 (老人福祉センター)	人	目標	0	0	0	0
実績			0	0	0		
業	事故件数 (岩崎・ふれあいデイサービス)	人	目標	0	0	0	0
			実績	0	0	0	

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	老人福祉センターの利用人数は、前年度より減少したが、老人福祉センター及びデイサービスセンターが各指定管理者により事故なく、適正に管理運営された。				
	平成26年度の改善内容	事業実施における課題	老人福祉センターの利用者が多く、2施設において機器不足及び待ち人数が多数ある。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	老人福祉センター及びデイサービスセンターが閉鎖され、同施設の利用ができなくなり、高齢者の余暇や生きがい活動の場及び利用者が馴染みのある場がなくなることになる。				
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの (対象や手段を見直す場合も含む)			
二次評価	方向性の判定	判定理由	今後の高齢社会において、住み慣れた地域社会の中で引き続き生活することを支援する必要がある。また、将来的には高齢化率の伸びを考え、新たな老人福祉センターが必要と考える。				
		27年度以降の改善案	引き続き指定管理者による適切な管理、運営を行うため、モニタリングを行うとともに、指定管理者との連携を蜜に図る。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 引き続き指定管理者のモニタリングに努め、利用者アンケート結果を活かすなど利用者の満足度が高まる施設運営に努めること。